

## 『地域おこし協力隊』をはじめとした外部人材導入後の運用に関するチェックリスト

作成：地域サポート人ネットワーク全国協議会

「地域おこし協力隊」などの外部人材の導入は全国的に広がっていますが、なかには隊員や地域に問題が生じたケースも見られます。本チェックリストは地域サポート人ネットワーク全国協議会の「知恵袋の会」メンバーが各地の取組みをもとに「地域おこし協力隊」など外部人材を導入後、ぜひ押さえておいていただきたい項目を具体的に挙げたものです。隊員導入後、年度初めや担当者の交代など、運用上の節目に本リストを用いて、サポートの状況や運用の方法など確認していただき、十分な体制をお作りいただきたいと思います。願っております。

なお、本チェックリストは行政・地域・協力隊と3者の立場から改めて確認できるようにチェック欄を3つ用意しております。行政の中で利用する際も他の立場からの見え方を含めて検討いただければ幸いです。またこれは「地域おこし協力隊」を主に想定して作成しておりますので、「集落支援員」など他の外部人材については適宜、応用して活用下さい。

## 関係者間の認識の共有について

	チェック欄			
	行政	地域	協力隊	
1				市町村長以下行政全体で改めて「地域おこし協力隊」の意義や狙い、活動内容などが十分共有できていますか？
2				受入れ地域による「地域おこし協力隊」への趣旨・目的への理解は十分進みましたか？
3				受入れ地域の主体性や当事者意識は醸成されていますか？
4				受入れ地域と行政のコミュニケーションは十分にとれていますか？
5				受入れ地域と隊員の連携状況について、把握やフォローなどはされていますか？

## 隊員の活動について

6				隊員は孤立していませんか？
7				隊員の活動内容を具体的に把握・評価できていますか？
8				隊員の活動内容は、当初の想定とうまく関連づいていますか？
9				導入した隊員は、当初想定していた人材像とうまく適合していますか？
10				隊員の活動内容や方向性に合わせた活動エリアを設定できていますか？

## 隊員の活動サポートについて

11				採用時のガイダンスは実施しましたか？
12				研修や交流の機会は確保できていますか？
13				隊員が活動や日常生活について相談できる体制は整っていますか？
14				活動費などは十分確保されていますか？
15				隊員は、受入れ地域から日常生活のサポートを十分得られていますか？

## 隊員の将来的な展望について

16				隊員の任期終了後の地域支援の方策について、受入れ地域とともに検討していますか？
17				隊員の定住・起業意向が実現できるような勤務体制になっていますか？

## チェックリスト各項目の解説

### 関係者間の認識の共有について

#### 1. 市町村長以下行政全体で改めて「地域おこし協力隊」の意義や狙い、活動内容などが十分共有できていますか？

担当課や担当者は「地域おこし協力隊」の趣旨を十分に理解した上で導入していることと思いますが、この活動は担当課のみではなく部署横断的な対応が必要となります。また、人事異動や市町村長の交代など、行政内部で担当者の入れ替わりもあるかと思えます。本事業の趣旨や活動内容などを行政内部でも十分に共有しておくことが重要です。

#### 2. 受入れ地域による「地域おこし協力隊」への趣旨・目的への理解は十分進みましたか？

「地域おこし協力隊はなんでも協力してくれる」と受入れ地域は思っていますか？受入れ地域の中で、導入の趣旨・目的に十分な「共通」理解があるか確認して下さい。この確認は導入後も繰り返し行う必要があります。もし、十分に理解されていないようであれば、担当課により事業の説明会を実施することも効果的です。

#### 3. 受入れ地域の主体性や当事者意識は醸成されていますか？

「地域おこし協力隊」が導入されたあとも、活動を隊員に任せきりにせず、地域が主体性を持って活動出来ていますか？協力隊の導入後、これまで地域で行ってきた様々な仕事を隊員に“丸投げ”してしまうケースが散見されます。導入前と同様に、導入後も地域の主体性が醸成されるよう積極的に働きかけを行ってください。

#### 4. 受入れ地域と行政のコミュニケーションは十分にとれていますか？

受入れ地域と行政との間で十分コミュニケーションを取ることにより、隊員の活動に関する様々な問題を未然に防ぐことができます。些細な問題であっても、隊員と地域の閉じた関係の中で次第に大きな問題となりがちです。気づいた時には手遅れとならないよう、日頃から地域の方々と密にコミュニケーションを取り、問題の芽を摘み取るような心がけが重要です。

#### 5. 受入れ地域と隊員の連携状況について、把握やフォローなどはされていますか？

外部人材を導入した経験のない地域では、隊員を十分に活かしていないケースもあります。地域の中で隊員がどのような役割を果たしているか、行政がしっかり把握しておくことが重要です。もし、受入れ地域と隊員との間に問題が生じてしまったときなどは、まずは問題に至るプロセスを関係者間で共有しながら整理、共有することが重要です。

### 協力隊の活動について

#### 6. 隊員は孤立していませんか？

地域おこし協力隊の活動は、隊員が独力で切り拓く面があります。だからといって隊員任せにしないことが重要です。隊員の活動も、集落支援員など他の外部人材やNPO組織など既に地域で活動を展開している組織・団体と連携を図りながら、ネットワークを広げていくことで、大きな伸びを示すようになります。もし、活動エリアにそのような連携する相手が見当たらないような時には、隊員を複数人配置するなど、仲間とともに活動できる環境を整えていく必要もあるでしょう。隊員の個性や地域との関係性が活きるように体制や配置人数の見直しも柔軟に図りましょう。

## 7. 隊員の活動内容を具体的に把握・評価できていますか？

地域おこし協力隊の重要な目的は「地域おこし」です。活動が地域おこしにつながっているか定期的に活動内容を把握しましょう。それが地域おこしにつながっているかを判断する上では、活動の関係者からも幅広く意見を聞くことが欠かせません。イベントの集客数など従来からある基準や数値指標にこだわりすぎず、隊員自身の成長過程も視野に入れて、関係者とよく議論しながら評価の仕方を編み出しましょう。

## 8. 隊員の活動内容は、当初の想定とうまく関連づいていますか？

募集時に想定した隊員の活動イメージと実際の活動は必ずしも一致しません。その場合、隊員の活動を当初の想定通りに修正したり、より想定に合う隊員を募集・導入したりするのは早計です。むしろ、隊員の活動が加わったことで地域の方向性がどう変化するかを、地域・行政・隊員でしっかり議論し方向性を練り直すことも視野に入れましょう。

## 9. 導入した隊員は、当初想定していた人材像とうまく適合していますか？

導入した隊員が当初想定していた人材像とうまく一致している場合は問題ありませんが、一致していない場合は隊員の力が十分に発揮できるように周囲が丁寧にフォローを加えていく姿勢が重要です。特に若い隊員の場合、活動を通じて“化ける”ことが多くあります。隊員が未熟だと拙速に評価せず、隊員の成長を促しましょう。

## 10. 隊員の活動内容や方向性に合わせた活動エリアを設定できていますか？

隊員の活動エリアには、集落、小・中学校区、行政区全体など、さまざまな範囲が考えられます。特定の集落を対象とする活動も、他の地域へ関わりを制約すると隊員の発想や活動が狭くなりがちです。活動範囲についても、当初の計画にこだわり過ぎず、実際の活動内容や将来的な活動の方向性に則して柔軟に設定を変えていくことが重要です。

## 隊員の活動サポートについて

### 11. 採用時ガイダンスは実施しましたか？

各自治体では、新人職員を採用した際には、数日をかけて採用時ガイダンスを行っていることと思います。多くの隊員は行政と関わった経験が少なく、行政特有の予算立案や執行のスケジュール感覚がありません。また、行政職員・関係者として求められる規律や事務手続きをすぐ理解できるわけでもありません。そのため、隊員向けには、ひととき丁寧なレクチャーが求められてきます。雇用条件の確認や待遇の詳細、活動費の内訳の説明も必要です。「理解できるのが当然。わからなければ自分から聞け」とばかり考えず、行政職員に行うのと同等のガイダンスや研修を必ず実施しましょう。

### 12. 研修や交流の機会は確保できていますか？

地域おこしの活動は非常に難しいものです。視察や研修による知見の獲得は必須です。知見を広げることで、目の前の課題解決だけでなく、新たな課題の発見や軌道修正などにもつながってきます。また、隊員や支援員など似たような立場の者どうしで悩みや知見を共有する交流の場も大切です。特に自治体内で複数の隊員・支援員がいる場合には、相互の交流を積極的に促しましょう。また、地域サポート人ネットワークでは全国研修会を随時開催しているほか、それぞれの地域の事情に応じた研修・交流の場づくりの相談にも応じますのでぜひ活用して下さい。

### 13. 隊員が活動や日常生活について相談できる体制は整っていますか？

隊員は地域に単身飛び込んで活動しているため、その過程で悩みも多く抱えるようになります。そのためにも、隊員が抱える小さな悩みから気軽に相談できるような場が必要でしょう。担当職員やアドバイザーなどが、日常的な交流の中から小さな悩みを見出し、早期の解決につながるような体制づくりも重要です。

### 14. 活動費などは十分確保されていますか？

地域おこし協力隊事業の特徴は、「報償費」とは別に「活動費」が用意されていることです。隊員が活動できるよう、十分な予算を確保することが重要です。仮に、予算が計上されている場合でも、その利用範囲や利用方法について、隊員には事前に十分な説明がなされていないトラブルも見られます。また、予算の内訳について、隊員の認識が不十分なケースもあります。経費面についても、隊員と丁寧な情報交換を心掛けましょう。

### 15. 隊員は、受入れ地域から日常生活のサポートを十分得られていますか？

隊員は新天地で慣れない暮らしを送ろうとしています。そのような彼らの日常生活を地域全体でサポートしていく仕組みも求められています。例えば、地域のしきたりや文化など、都市部から来た若者には、地域での“当たり前”が驚きをもって受け止められていることも多くあります。地域の側に、隊員＝都市地域からくる人材、という認識を持ってもらい、隊員が日々の生活において相談しやすい体制を用意しましょう。

## 隊員の将来的な展望について

### 16. 隊員の任期終了後の地域支援の方策について、受入れ地域とともに検討していますか？

隊員の任期が終了しても地域づくりの活動は続きます。隊員の後任を新たに採用するのか、地域の力で自律的に活動を続けていくのかなど、行政と地域、隊員とが任期が終了前に肚を割って議論しておくことが重要です。もし、協力隊の後任を採用する際には、地域の状況に合う人材像を改めてイメージしておく作業が求められます。

### 17. 隊員の定住・起業意向が実現できるような勤務体制になっていますか？

隊員が任期終了後にどのような定住や起業の意向を抱いているか、定期的にかつ具体的に確認しましょう。もし、定住や起業の意向があれば、その実現に向けて雇用形態や勤務体制、副業の取扱いについてできるかぎり柔軟に運用しましょう。定住・起業を準備する時間を確保できるよう、週5日勤務にこだわらない対応も求められるかもしれません。定住・起業を実現するためには、一定の資金の確保や試行錯誤する経験も欠かせません。そのためにも任期中に副業にチャレンジできるような雇用形態への変更もあり得ます。

以上のチェックリストを確認しながら、制度の効果的な運用につながるよう十分な検討をお願いいたします。特に課題解決や改善に向けては外部アドバイザーなど、第三者のアドバイスを得ながら取り組むことが効果的です。また、他の地域や総務省、地域サポート人ネットワーク全国協議会などにも積極的にご相談いただければ幸いです。

作成：地域サポート人ネットワーク全国協議会 知恵袋の会  
(社)中越防災安全推進機構 阿部 巧  
明治大学 小田切徳美  
法政大学 凶司 直也  
徳島大学 田口 太郎  
弘前大学 平井 太郎